

未来の自分をつくる

「めざす働き方」実践講座 Vol. 8



仕事と暮らしの研究所 代表 鹿野 和彦氏

1991年に広報PR&人材育成支援等を行う株式会社アブレ コミュニケーションズを設立、2001年には仕事と暮らしの研究所を設立して労働組合・大学・自治体などのシンクタンクとしてサポート事業を展開。大正大学キャリア教育研究所招聘研究員、労働組合・各種団体の客員研究員。著作のテーマは人材育成、教育・社会問題、広報関係等幅広い。

めざす働き方を考える (2)

第6・7回の記事では、「めざす働き方」を実現するために、世の中の変化を把握するための方法を整理してきました。日々のニュースからどのようにして変化を読み取るのか。また、それにくわえて身近な仕事からも変化を捉えることができることを学んだわけです。しかし、大切なのはそれらの変化を見据えて自らの働き方を考えること。世の中の変化に対応しながら自らのキャリア形成を考えていくことが重要です。

AIやロボット技術の進化は人間の仕事を奪ってしまう？

今や誰もが当たり前のように利用するパソコンですが、コンピューターが世の中に登場したとき、人々は「仕事がなくなるかもしれない」という不安を抱いたそうです。実際、タイプライターを使って文書の清書作業を請け負っていた人の仕事は取引先にワープロやパソコンが導入されたことによって奪われ、配置転換や転職を余儀なくされる人も存在しました。また、情報機器によって生産活動の効率化が推進された結果、オフィスや工場での人員の合理化が行われ、雇用を失った人が一定数にのぼったことも事実です。しかし一方で、情報機器の進化によって新たな雇用が生まれ、また、情報機器を活用することで自らの生産性を向上させてきたのも事実でしょう。

ところが、現在注目されているAIやロボットは、コンピューターやインターネットが登場したとき以上に大きな影響を雇用に与えるのではないかと心配されています。というのも、AI、ロボットはそれぞれ知能を持った人間の分身のようなものであり、人間が担っていた仕事の半分、あるいは3分の2以上がAIやロボットに置き換えられるという予測がなされています。つまり、めざす働き方を考えるためには、将来にわたって自分が所属する業界・仕事が存在するのか、という問いから始めなければならないのが今日の状況なのです。



日々のNEWSを読み解くことで損保業界、自らの仕事の未来を予測する

第6回の記事では、「日々のニュースから変化を把握する」ポイントを整理。ネットに頼らず、信頼できる情報から未来を読み取る感覚を養い、「めざす働き方」を模索するために「めざす働き方・推進ノート」と題した読書ノートを作成する方法を解説しました。その記事にも記載しましたが、今号がお手元にとどく年末年始は、各出版社がこぞって2018年やその先の未来を予測する書籍や雑誌を刊行する時期にあたります。

将来の変化をふまえてめざす働き方を考えようと思うなら、まずこうした変化を先取りした書籍や雑誌を読み、今後、損保業界がどう変化するのか。また、業界を問わず、自分の仕事がどのような形態に変わっていくのかを把握することが大事です。

具体的には、可能な限り多くの書籍や雑誌を読み込み、次の手順で自分の仕事の将来を予測してみてください。

〔図表1〕 損保業界・自分の仕事の変化を予測する

- ☐ 業界の市場規模はどのように変化していくのか
「少子高齢化、人口減社会などの影響は？」
- ☐ 業界の取り扱い商品の变化はあるか
「仕事や暮らしの変化で生まれる新たなリスクは？」
- ☐ 業界内の会社の組織は変化するか
「会社形態は維持される？ 代理店制度はどうなる？」
- ☐ そもそも、損保業界は存在するのか
「ほかの業界に置き換えられる？ ほかの業態に統合される（ほかの業界を統合する）？」
.....
- ☐ AIやロボットによって自分の仕事はどう変わるか
「自分の仕事はAIやロボットを活用できる仕事か？」
「AIやロボットは自分の仕事をどのように変える？」
- ☐ そもそも、自分の仕事は将来も存在するのか
「AIやロボットに置き換えられる仕事か？」

「働き方」そのものの変化を捉え 自らのキャリアを形成する方向を考える

将来を予測する書籍、雑誌の主要テーマとなると予測されているのが「働き方」の変化です。

現在、政府は「働き方改革」を構造改革の柱として位置づけ、具体的な実行計画を取りまとめ、関連法案の成立をめざしています。10月の解散・総選挙で多少のタイムラグが生まれていますが、少子高齢化、人口減少が加速度的にすすむ日本では、「働き方改革」は待ったなし。連合の神津里季生会長もメンバーにくわるなど、「働き方改革実現会議」には各界を代表する有識者が参加し、9つのテーマについて議論がすすめられました（図表2）。

「働き方改革」というと、長時間労働の規制や処遇格差の改善といったテーマに注目が集まりがちですが、本質は「人口1億人時代の働き方」を見据えた諸制度の改革。前述したAIやロボット技術の高度化も念頭に置きながら、人口が減り続ける日本社会をどのようにすれば活力ある社会にしていけるのか。そのための働き方とは何なのかを展望することが本題です。当然、私たちの働き方は大きく変わりますし、その変化は単なる業界や職種のレベルにとどまらないことを認識しながら、書籍や雑誌を読み解くことが大切です。

2016年8月、厚生労働省は「働き方の未来2035」をまとめました。AIやロボットなどの技術革新をプラスに捉え、「一人ひとりが輝く2035年における働き方」を描いた同報告書は、これからのキャリア形成を考えるうえでさまざまな示唆を与えてくれます（図表3）。

報告書が示した世界が実現すれば、会社という枠

そのものが今とまったく異なるものとなり、私たちは自立した一人のビジネスパーソンとして、主体的に働いていくことが求められるようになります。産業革命によって、それまでの家内制手工業が一変して、企業に雇われて働く工場労働者というスタイルが誕生しましたが、AIやロボットが主流になる時代においては、労働者は会社や工場を離れ、一人ひとりが「個」に戻って仕事をする時代になることも想定されるのです。

キャリア形成も同様です。どんなに大きな変化があっても柔軟に対応できる自分づくりをめざしていくことが重要であり、「自らのキャリアは自らがつくるんだ」といった「自立」の精神と、そのための基本姿勢&スキルを身につけることが求められます。

次回からは、めざす働き方を実現するために、自らのキャリア形成方法について整理していきます。

〔図表2〕

1. 同一労働同一賃金の実現など非正規雇用の処遇改善
2. 賃金引き上げと労働生産性の向上
3. 時間外労働の上限規制のあり方など長時間労働の是正
4. 雇用吸収力の高い産業への転職・再就職支援、人材育成、格差を固定化させない教育の問題
5. テレワーク、副業・兼業などの柔軟な働き方
6. 働き方に中立的な社会保障制度・税制など女性・若者が活躍しやすい環境整備
7. 高齢者の就労促進
8. 病気の治療、子育て・介護と仕事の両立
9. 外国人材の受け入れの問題

〔図表3〕「働き方の未来2035」／一人ひとりが輝く
2035年における働き方

（厚生労働省HP <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000132314.html>）

1. 時間や空間にしばられない働き方に
2. より充実感がもてる働き方に
3. 自由な働き方の増加が企業組織も変える
4. 働く人が働くスタイルを選択する
5. 働く人と企業の関係
6. 働き方の変化がコミュニティのあり方を変える
7. 世界と直接つながる地方の新しい姿
8. 介護や子育てが制約にならない社会
9. 性別、人種、国籍、年齢、LGBT、障がい、すべての「壁」を超える

本シリーズは損保労連ホームページにも掲載しています
（URL：<http://www.fnui.or.jp/mirai2/>）

特設サイトはこちらからも読み込めます→

